

研究ノート

NHK「朝ドラ」の成功要因に関する一考察

張 文 穎

目 次

はじめに

第一章. 純なるものへの強い憧れ

第二章. プロフェッショナルへの終わりなき追求

第三章. ブランド意識から生まれる宝

おわりに

梗概

NHK「朝ドラ」が生まれて今年55周年を迎えている。この50年余りの間日本人に愛されてきた。本論文で日本のNHK「朝ドラ」に焦点を当て、その制作過程からヒットする原因を探っていききたい。

キーワード：朝ドラ、純なるもの、成功要因、プロフェッショナル、ブランド意識

はじめに

「朝ドラ」はNHKが1961年から放送をしている、女性を主人公とする朝の連続テレビ小説の略称で（以下、「朝ドラ」と省略する）、放送開始から既に55年の歳月が経過している。朝ドラは通常、毎週月曜日から土曜日の午前8時から8時15分まで放送される。1話の放送時間は15分で、毎週6話が6カ月連続で放送される。一作品の総放送時間は39時間にも上る。これはNHKが誇るテレビドラマである。

朝ドラの主な特徴は以下の通りである。

1. 主人公の女性は通常、若さと活力に満ち溢れている上、非常に美しい容姿の持ち主である。若手女優にとってNHKの「朝ドラ」に出演し、主役を務めることは将来大女優になる上での登竜門になっている。女優の共通の特徴は純真で明るいことである。
2. 物語は一部、東京以外の地方の町或いは山村を舞台とし、方言が欠かすことのできない要素になっている。「朝ドラ」の中で役者たちに徹底

的な方言特訓を行い、正しい方言を再現する役目を果たしている。日本の毎年年末の流行語大賞には朝ドラの方言が四回も入賞している。¹⁾

3. プラスのエネルギーに満ちたストーリーも主要な特徴である。ストーリーは、運命に敢然と立ち向かう女性たちのひたむきさを描いている。中国において「主旋律作品」（プロパガンダ作品）と称されるべきこうしたテレビドラマが日本においてなぜエネルギーを失わず常に瑞々しさを保っているのかについては検討するに値する。
4. 通常、「朝ドラ」の放送後、「ロケ地」には一定の経済的効果もたらされ、地元の経済や観光業は活性化する。この点は大河ドラマや最近アニメーションの上映による「聖地巡礼」ブームと似ている。
5. 「朝ドラ」の内容には、時代が変遷するのに伴い、その時々要素が加えられており、時代と共に前進するという特徴を備えている。60年代の専業主婦から21世紀のキャリアウーマンに至るまで、時代は女性に人生において追求すべきより多くの目標を付与している。われわれ中国の視聴者の記憶に新しい「おしん」は「朝ドラ」の集大成というべき作品である。一方で変わらないのは運命に屈しない女性主人公のひたむきさと勇気である。²⁾

それらの特徴を通してNHK「朝ドラ」の魅力を感じ取ることができる。では、なぜ「朝ドラ」は日本人に愛され続けているのか、以下の三つの角度から「朝ドラ」の成功要因を探っていききたい。

第一章. 純なるものへの強い憧れ

日本文化においては純なるものが殊の外好まれる。高校野球に対する人々の熱狂ぶりはその典型例である。高校野球に対する多くの人々の熱狂ぶりはプロ野

球に対するそれを凌ぐ。私は高校球児たちの純真さとひたむきさにその理由を求めることができると考えている。まだあどけない顔立ちの球児たちには最後の一瞬まで戦い続けることのできる無限のエネルギーが秘められている。大人たちは、最終的な勝ち負けに関係なく、汗と涙にまみれた彼らの表情を見て青春時代の多くの思い出に思いを馳せるのである。それに引き換えわれわれ中国の中高生は1日中勉強に忙しく、参加できる課外活動もない。彼らは体こそまだ若いけれども心はとっくに老いてしまっている。われわれが町で中国の中高生を見掛ける際にまず感じるのには彼らには生氣と活力が欠けているということである。

「朝ドラ」がわれわれに伝えているのは青春或いは純粋な気持ちとはかけがえのないものだということである。主人公たちは初心を忘れず、ひたむきさを失わず、頑張りぬく。その姿に感銘を受けている人は少なくないであろう。

初心を忘るべからず、この仏教から生まれる言葉は日本で真の意味で開花したと思う。私が最初にこの言葉に接したのは日本語を勉強し始めたころのことである。中国においてはこの言葉は最近になって日本から逆輸入された形でよく耳にするようになった。『故事ことわざ辞典』では「初心忘るべからずとは、何事においても、始めた頃の謙虚で真剣な気持ちを持ち続けていかねばならないという戒め」と書いてある。人には若いころは誰でも純粋な一時期があると考えられる。年を重ねていくにつれて、だんだんその純粋さが忘れられていくのである。「朝ドラ」は主人公たちの奮闘ぶりを通して、初心を保ち続けることはいかに大変であるかを示すとともに、最後は強靱な力で成し遂げたことを我々に教えてくれている。「朝ドラ」はドラマの形で、初心は保てるものだ実証してくれている。現代人にとっては、「朝ドラ」は宝石のような貴重なものである。だから多くの人が「朝ドラ」の虜になっているのである。

第二章. プロフェッショナルへの終わりなき追求

「朝ドラ」の製作過程においては、製作チームの全メンバーに非常に高い要求が課せられる。通常のテレビドラマの放送時間は1話が大体46分である。3カ月に13話放送すると計算すると、総放送時間は約10時間である。朝ドラは毎日15分放送され、1週間の放送時間は90分に上り、半年間に156話が製作され、放送には通常のテレビドラマの4倍の39時間が費やされる。

半年間にわたる通常のテレビドラマの4倍の放送内容において台本だけでも30本以上覚えなければならない。平均すれば1カ月に4～5本である。毎週月曜日にその週に撮影する必要のある内容のリハーサルを行い、火曜日から金曜日の午前9時から正式に収録を開始し、撮影は深夜0時に及び、これが常態になっている。毎日15時間働き、疲労困憊になって帰宅した後もセリフを覚え、次の撮影のために準備をする。土曜日と日曜日も休みではない。「ロケ地」での撮影、番組の宣伝、メディアの取材……、このような撮影生活を少なくとも半年以上、ひいては10カ月間休むことなく続けなければならず、製作チーム全員の体力と精神の限界が徹底的に試されることになる。撮影の過程はそれ自体が若手女優の絶えざる成長の過程でもあり、視聴者は彼女たちの成長の過程を見届けられることになる。

視聴者は「朝ドラ」と共に半年間または1年間過ごすことを通じて、役者たちと運命を共にしているような感覚をおのずと抱くようになり、役者たちとの距離が縮まり、まるで（女優が）家族の一員になったように感じる。このことも朝ドラが成功を収めている重要な要素の1つである。役者やスタッフはそのひたむきさと汗と引き換えに視聴者から支持を得ていると言える。

「朝ドラ」であれ民放のテレビ局が製作したテレビドラマであれ、「勵志」（志を抱き、失敗を恐れずに前向きに人生を全うすること）がキーワードである。われわれは日本のドラマはこのテーマを取り扱いすぎではないかと思うことがあるが、「勵志」というテーマが体裁を変えて繰り返しわれわれの眼前に提示されるのに気づくだろう。その原因を突き詰めると、日本の文化・伝統と関連があると考えられる。「朝ドラ」で示されている、物事に粘り強く取り組み、極みを目指すことは日本人の精神の真髄である。主人公の女性の奮闘の物語は、それ自体が一般の日本人の人生の縮図と見ることができる。こうした民族精神があれば、日本は引き続き世界において冠たる位置を占めることができるだろう。

2016年中国全国人民代表大会において李克強総理が政府活動報告の中で初めて匠の精神に触れている。その後、メディアにも取り上げられ、重視されるようになってきている。特に日本の匠の精神に学べという論調が最近になって目立っている。

匠という言葉について『デジタル大辞泉』は次のように説明している。

1. 大工・細工師・職人。「匠人／工匠・巧匠・石匠・刀匠・番匠・木匠」
2. 技芸に長じた人、学問・芸術で一家をなす人。「学匠・楽匠・巨匠・師匠・宗匠」
3. 新しいものを作り出す工夫、アイデア。「意匠」
匠という言葉は実は中国で生まれた言葉で、中国古代には日本より先に匠の精神を育てたが、近代になってくると、戦乱、政治的な混乱などの原因でその精神が途絶えている状態にある。

日本の「匠の精神」も長い歴史がある。キャノングローバル戦略研究所の瀬口清之研究主幹は、「日本の成功は伝統的な精神文化を基礎とし、中国古典文化の精髓を吸収し続けてきたことによるものだ。『職人文化』は中国の伝統思想と日本固有の精神が融合したもので、職人と農民は自分の仕事を『天職』とみなし、天に対して忠実でなければならないと考え、全力で仕事に取り組む。日本の農民の文化、町民の文化、武士の文化の基礎はすべて中国からきたものだ」と話している。³⁾

「朝ドラ」はまさに日本伝統的な匠の精神を吸収し、受け継いできている。一途な思い、純粋な思い、粘り強さ、それが日本人の匠の精神の基礎であると考えられている。

私は日本に来るたびに、商店やレストランの若い女性従業員たちの活力と魅力にあふれた声、そして高い職業意識に裏打ちされた彼女たちの振る舞いと笑顔に接したいと強く思う。仕事の内容はいたって単純かもしれないが、彼女らは卑屈になる訳でも傲慢になる訳でもない不撓不屈の人格的魅力をわれわれに見せてくれる。私は彼女たちの仕事への姿勢に毎回敬服させられる。彼女たちはどうしてこういうことができるのだろうか。彼女たちの内心は純真であり、まさにそうであるがゆえに他者を心から尊重する姿勢を示すことができるのだと思う。日本のサービス文化は究極的には他者に対する心からの尊重に由来するものであるにちがいない。

第三章. 「朝ドラ」——ブランド意識から生まれた宝

「朝ドラ」は毎年日本のテレビドラマ視聴率ランキング上位を占める。それはプロフェッショナルとしての精神で成し遂げたものである。その神業はどのようにして身につけたのか、私は強いプロ意識とブランド意識がうまく融合してできた宝であると思う。そのブランド意識も匠の精神の重要な要素の一つである。

日本で100年以上の歴史を持つ老舗は実に2万社を超え、米国でも1000社程度有るのに対して、中国では20社に過ぎない、その一番重要な原因はブランド意識が欠けているのではないかとされている。⁴⁾

1983年の「おしん」では最高視聴率60%を超えたという。「おしん」は輸出され、日本だけでなく世界中の多くの人たちから愛されている。

昨今は、ドラマの視聴率が民放も含めて振るわないと言われているが、それでも「朝ドラ」は20%前後の視聴率を今でも保ち、数字の面で、民放のドラマに圧倒的な差をつけている。

「朝ドラ」はオーディション段階から別格である。オーディションの主役応募者数で今まで最多だったのは「あさが来た」(2015年後期、主演・波瑠)で2590人。続いて、「とと姉ちゃん」(主演・高畑充希)の2564人となっている。今年10月にスタートする「べっぴんさん」のヒロインを決めるオーディションの応募者は2261人にも上った。「あさが来た」のヒロインは「相撲好きのおてんば娘」という設定だったため、応募者同士で相撲をとる「審査」があったというから驚きである。多数の応募者の中から勝ち抜いてきた女優だけあって、「あさが来た」、「とと姉ちゃん」とともに20%以上の平均視聴率となっている。⁵⁾

主役が決まって撮影に入る前には、厳しい方言指導、時代背景についてのトレーニングがヒロインを待ち受けている。撮影に入ると膨大なセリフを覚えなければならない。それに脇役とのコミュニケーションなど、まさに試練の連続である。それらの試練を乗り越えて初めて一人前の女優になれる。まさに「朝ドラ」とともに成長していくのである。

視聴者を大事にする姿勢は「朝ドラ」にはある。庶民目線が「朝ドラ」のヒットの要因でもある。朝から視聴者に元気を届ける、それが朝ドラの使命にもなっている。それが共感を呼び、「朝ドラ」とも生きる、まさに一種のコミュニティが作られている。

周りの人に助けられながら、懸命に生きる主人公の姿に、多くの人が胸を打たれるのもコミュニティのおかげである。「よし自分も頑張ろう」と視聴者はおのずと考えるようになる。そしてその枠組みは、どんな作品であっても変わらない。これを壊さずに作品をつくり続けていることが「朝ドラ」が愛されている第一条件と私は考える。

朝ドラはまさに日本のテレビドラマ界の「ブランド」といえよう。

おわりに

日本人は変わらないものに執着心を持っているようである。人気ドラマの多くは永遠に変わらないものが内蔵されている。「水戸黄門」、「男はつらいよ」など、その気風を受け継いでいる。それは日本人の美意識であると同時に美徳でもある。簡素に生きる、淡泊に生きる、その生きる姿勢も匠の精神でもある。

註

- 1) っしょ（「チョっちゃん」1987年）；ゲゲゲの（「ゲゲゲの女房」2010年）；じえじえじえじえ（「あまちゃん」2013年）；ごきげんよう（「花子とアン」2014年）。
- 2) 「おしん」は、中国では1985年頃に初めて放送され、大反響を得た。その後、何度か再放送されている。
- 3) <http://j.people.com.cn/n3/2016/0422/c94476-9048123.html>
日本は「匠の精神」をどのように育ててきたか
- 4) <http://world-conect.com/20000-oldcompany>
世界コネクト
- 5) <http://parupun.com/archives/222.html/2>
【驚愕】NHK朝ドラオーデイションの内容がヤバすぎる…

参考文献

- [1] 『朝ドラの55年』NHK出版2015年11月 pp.104-109.